

すべて [トップ](#) [新型コロナ](#) [ウクライナ](#) [紙面ビューアー](#) [オピニオン](#) [連載](#) [コラム](#) [特集](#) [動画](#) [写真](#)

[ホーム](#) > [教育・受験・就活](#) > [教育](#) > [ニュース](#)

都立高が塾講師招き「校内予備校」開設へ...受講費用は都教委が負担、経済的格差減らす狙い

2022/12/26 07:30

 この記事をスクラップする



東京都教育委員会は2023年度、高校生の大学進学を支援するため、民間の予備校や学習塾の講師を都立高に招いて講習を実施する方針を固めた。生徒の受講費用は都教委が負担する。経済的な事情で十分な受験対策ができず、進学や希望する進路を諦める生徒を減らす狙いがある。



東京都教委が入る都庁第二本庁舎（右）、左は第一本庁舎（読売ヘリから）

複数の都関係者によると、講習は放課後や土日、長期休みに実施。受験で配点が高い英語や、苦手な生徒が多い数学を重点的に指導する。今後、実施校や提携する予備校を選定する。新年度予算案に関連経費約1億円を計上する見込み。

都教委によると、21年度の都立高卒業生の大学（短大含む）進学率は58.5%と前年より2.7ポイント増えたが、過去10年間の進学率は51～55%台にとどまっている。一方、大学入学共通テストは難易度の上昇が指摘されており、21年度は、全30科目のうち7科目の平均点が過去最低を記録した。都教委は、予備校が持つ豊富な受験ノウハウを生徒に身につけさせ、進学率を上げたい考えだ。

塾講師による有料の講習を校内で独自に実施している都立松原高（世田谷区）の佐藤和彦校長は、「学校の教員は通常の授業のほか、生活指導も担っており、個々の受験対策まで手が回らないこともある。生徒たちは学習塾の効果的な学習方法で学力をつけており、進学への意欲が高まっていると実感している」と話した。